

令和3年度第3回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和3年11月18日（木）13：30～15：00

場 所 事務局第一会議室及びZoom 併用

出席者 [会議室] 坂井学長、重原理事、柳澤理事、西井理事、岡村理事、中村理事、
内海委員、佐々木委員、利根委員、平本委員
[Zoom] 砂川委員

欠席者 小安委員、山名委員

陪席者 [会議室] 山中監事、齋藤監事、川合副学長、川又副学長
[Zoom] 田代副学長、木崎副学長、伊藤副学長、末松人文社会科学研究科長、
禹経済学部長、薄井教育学部長、黒川理工学研究科長、石井理学部長、
前山工学部長

- 坂井学長から、小安委員及び山名委員が本会議を欠席する旨報告があった。
また、砂川委員については途中退席となる旨報告があった。
- 令和3年度第2回議事要録の確認について
令和3年度第2回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、
了承された。

※各事項における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

○ 審議事項

1 令和3年度学内補正予算について

西井理事から、資料2に基づき、令和3年度学内補正予算の概要及び年度当初予算からの主な増減要因についての説明があり、審議の結果、承認された。

☆ コロナ禍では留学生の減少等があったのでは無いと思われる。見込みよりも在籍者が多かったとのことだが、見込みとの差異はどのような要因で発生したのか。

△ 具体的な数値としては、見込みに対する入学者の増加と、留年者の増加が挙げられる。

△ 退学者が減っているということも若干影響していると思われるが、在籍者における留年者の人数が増えている状況である。過去の留年率等も踏まえて、詳細に分析を行っていきたい。

○ 報告事項

1 戦略的研究領域について

重原理事から、資料3に基づき、第3期中期目標期間において実施してきた戦略的研究部門・領域の主な実績と、第4期から設置予定である新たな教育研究組織の概要について報告があった。

☆ 令和4年度から設置予定となっている全学戦略的研究推進委員会（仮称）の役割と、具体的な活動内容について説明願いたい。

△ 当該委員会では、社会的インパクトも踏まえた大学の強みとなる研究領域や研究グループの分析、大学として推進する戦略的研究領域の設置と研究環境のサポート、さらには定期的な評価など、全学的な立場から戦略的研究を推進していくことを想定している。

☆ 部局としての活動が制約されることが無いようバランスを取りながら推進し、さらなる発展を目指して欲しい。

△ 進捗状況の確認や評価が重要となるため、どのくらいのパフォーマンスを上げているのかをこの委員会を通して見ていきたい。

☆ 日本では若い人が新しい研究に着手することがそれほど多くない状況であるため、新設するインキュベーションセンター（仮称）を有効活用し、大学としても是非後押しして欲しい。

△ 戦略的研究領域は固定の研究グループで設置から5年間の活動期間を予定している。インキュベーションについては、芽が出そうな研究を行っている若手等を対象に毎年公募を行って充実させていき、その中から次回以降の戦略的研究領域に申請する研究グループが出てくるような流れも作っていききたい。こういった制度を通じた若手研究者へのフォローアップも大事なことだと考えている。

☆ 活動期間が3～5年程度の研究テーマを対象としていて、それ以上に長期的なものは対象にしていないということではいか。また、多くの外部資金のように1～3年程度を基準とすることは考えていないのか。

△ 期間の設定は難しい問題であるが、既にある程度の実績を上げている状況で戦略的研究領域として設置され、5年程度の期間でさらなる研究成果と社会への波及効果が期待できる、というレベルの研究テーマを想定している。また、外部資金の実施時間の長短には様々なものがあるが、2年程度の期間で成果を上げた研究グループが次の資金にステップアップしながら応募していくような制度設計のものも多く存在する。

△ 社会の情勢に合わせて学内の取組を変えていくには5年是一个の区切りとして適切な期間であると考えており、そのタイミングでの実績等を基に研究テーマの見直しや継続などを判断していくことになると思われる。

☆ インキュベーションの部分については外部資金の活用が難しく、内部の資金を優先的に配分することなどが必要になってくると思われるが、予算措置等についての検討は進んでいるのか。

△ 戦略的研究領域については、各領域に年間 500 万円～1,000 万円程度の研究費、研究スペース、人員配置等のサポートを想定している。インキュベーションについては年間 100 万円程度の研究費支援等を考えているところである。

2 教育の内部質保証体制について

柳澤理事から、資料 4 に基づき、本学における教育の内部質保証体制について報告があった。

☆ 内部質保証体制の基本的な考え方としては、まずは各部局の自己点検・評価があり、それに対して全学的な観点からの検証及び自己点検・評価が行われ、改善を促していく、ということが念頭に置かれている。資料中の体制図では部局と全学との関係性は読み取れないが、前述のような考え方で体制を作っているのか。

△ 内部質保証は学位プログラムごとに行うこととなっているため、基本的には学部・研究科単位での対応となるが、大学全体としても確認していくこととなる。例えば、専門教育は学部単位の観点で、基盤教育は全学での観点での自己点検・評価となるため、必然的に学部におけるプログラムをチェックする際には、大学全体が教育組織としてプログラムを回しているか、ということをチェックしなければならない仕組みとなっている。

(砂川委員が途中退席)

3 令和 2 事業年度における剰余金の繰越承認について

西井理事から、資料 5 に基づき、令和 2 事業年度における剰余金の繰越承認について報告があった。

4 財務レポートについて

西井理事から、資料 6 に基づき、令和 2 事業年度の財務状況及び取組内容を中心として作成した財務レポートについて報告があった。

☆ 資料中の「学生一人当たりの教育関係経費約 107 万円」については、記載されている教育関係経費総額や学生納付金等と照らし合わせると、半分は学生納付金として学生の自己負担、半分は税金等を含めた大学資金で賄われているというイメージで良いか。また、学部ごとに差異は無いのか。

△ そのイメージで問題無い。本学の財源の大まかな構成としては、約 3 分の 1 が授業料で約 3 分の 2 が運営費交付金等となっており、学生に係る経費を取りまとめて算出すると一人当たりが約 107 万円となる。また、学部ごとに授業料に変化は無いが、費用は理工系や人文系で変わってくるため差異はある。財務レポートでは特に示し

ておらず、財務諸表で学部等のセグメント別の費用は確認可能である。ただし、会計上は収入と支出を完全に紐付けている訳では無いことには留意が必要である。

5 第4期中期目標・中期計画素案の修正について

川又副学長から、資料7に基づき、第4期中期目標・中期計画素案の修正対応状況について説明があった。また、文部科学省からの2件の通知等も踏まえて、現在の第4期中期目標・中期計画素案に意見等がある場合には、11月26日（金）までに連絡願いたい旨の依頼があった。

○ その他

1 埼玉大学の最近の動向について

坂井学長及び川合副学長から、埼玉大学における最近の活動内容について、下記のとおり報告があった。

(1) 埼玉大学の状況について（坂井学長）

10月からの緊急事態宣言の解除に伴い、本学の新型コロナウイルス感染症対応マニュアルに基づくリスクレベルを3から2に引き下げ、第3・第4タームの授業は対面とオンラインを併用した形式での実施とし、入構制限や課外活動の停止等の措置を解除している。報道でもあるように感染拡大の第6波なども懸念されているため、感染防止に配慮しながら、大学構内に学生が戻れるようにしていきたい。

クラウドファンディングの仕組みを用いて寄付を募り、学生向けの「100円食堂」という取組を行っている。マスコミ等にも取り上げられており、現在の寄附金受入状況は目標金額の42%程度となっている。

(2) 大学広報・社会連携活動の状況について（川合副学長）

コロナ禍における各種活動のオンライン化等の変化に対応するため、SNS等を活用した情報発信を進めている。昨年度からSNSへの投稿等を増やし、公式アカウントへのフォロワー数も増加しているところである。今年度4月から広報・社会連携室会議を発足させ、効果的な広報活動を行うためにホームページ掲載やツイッター投稿の閲覧回数・時間等のデータ分析を行っている。

各報道機関へのPRの場として、昨年度から年二回の埼玉大学記者会見を実施しており、案件によっては会見後に個別の取材依頼を受けるなどの効果を上げていく。プレスリリースのタイミングや回数を工夫するなど、埼玉大学の記事等を取り上げてもらうための様々な取組を行っている。

セミナー・シンポジウム等については、今年度当初はオンラインでの開催となっていたが、最近では新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきているため、対面開催も増えつつある。

- ☆ 積極的に大学側から広報活動を実施しているのは、素晴らしい取組だと思う。
- △ 埼玉大学では様々な活動をしているが、世間に伝わっていないという面があるため、広報には注力していきたい。

2 次回日程（令和4年1月27日（木））

坂井学長から、次回日程の開催時刻については、改めて各委員のご都合を伺いたい旨の連絡があった。

以上